

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K09194

研究課題名(和文) 医学および行政機関との協同による有効な若年層自殺対策

研究課題名(英文) Effective suicide measures among younger age group by the cooperation with medicine and administration

研究代表者

井上 顕 (INOUE, Ken)

高知大学・教育研究部医療学系臨床医学部門・教授

研究者番号：40469036

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：わが国の総数における年間自殺者数は2016年の時期には減少が継続しており21,000人台で、2017年の自殺者数は2016年よりも減少、2015年と比較しても2017年の自殺者数は減少していた。年齢階級別自殺死亡率において若年層以外は低下を示していたが、若年層は低下しているとは言い難かった。そこで、本研究では若年層において自殺動向を含めた検討を実行した。その結果に基づく対策に関連する分野や機関が連携した多方面からの対応が重要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国における1998年の自殺者数は30,000人と急増し、以降もその推移を維持していたが、本研究採択の頃には自殺者数は減少していた。しかしながら、若年における自殺死亡率の状況からその層の対策が大切である位置づけになっていた。本研究課題はその重要な事項を検討した。主を若年にして様々な側面から本研究課題を進行し、多視点からの連携した対策の必要性を提案できたことは学術的意義および社会的意義があったと考慮している。

研究成果の概要(英文)：The annual number of suicides in Japan continued to decrease in 2016 and was around 21,000. There were fewer suicides in 2017 than in 2016, and the number of suicides in 2017 was also lower than the number in 2015. The mortality rate due to suicide by age group decreased for all age groups, but the same was not true for younger age group. Therefore, the present study examined suicide trends among younger age group. Based on the present results, personnel and organizations in fields related to suicide prevention measures need to perform together to deal with suicide using a multifaceted approach.

研究分野：医歯薬学

キーワード：自殺 若年 有効対策 協同 総合的側面 健康 指標 社会

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の頃とその流れに至るところまでの本研究関連の諸推移を振り返ってみると[参考文献1]、わが国の総数に関する年間自殺者数は1992-1997年において20,000人前半の示唆であったが、1998年に30,000人超と急増、その前後を以後10数年推移した。2012年から自殺者数が減少を示してきた数値の旨を理解できる状況となり、本研究を申請した2016年そして採択いただいた2017年の時点も年々その方向が継続した。男性の年間自殺者数において1992-1997年は10,000人前半から中後半で推移し、1998年からは20,000人前半の範疇の前後にて示唆、2011・2012年から自殺者数減少を考慮の数値と理解できる状況であり、2017年も自殺者は14,000人台と減少傾向であった。女性において1992-1997年の年間自殺者数は7,000人前後から8,000人未満を推移していたが、1998年に9,000人超となり、以降概ねその前後を推移しながら2012年より自殺者数の減少を示唆できる数値状況に至った。2013-2016年そして本研究の採択年の2017年まで年間自殺者数は年々減少した。

2007-2017年の年齢階級別自殺死亡率において総数では40歳以上の各年齢層でその死亡率低下を考慮できる数値状況であったが、30-39歳以下の各年齢層ではそうであると言い切れない状態と理解した[参考文献1]。男性でも40歳以上の各年齢層で自殺死亡率低下を示唆できる数値の状況、30-39歳でも40歳以上の各年齢層と類似のことは言えるが、40歳以上の各年齢層までは顕著でなく、20-29歳以下の各年齢層はそのようにとまでは言えない経過であった。女性では60歳以上の各年齢層で自殺死亡率低下を考えることも重要な状況の結果であり、20-59歳の各年齢層では60歳以上の各年齢層とまでは言えない低下の傾向と考慮、10-19歳においてははそうと言い切れないとの把握に至った。

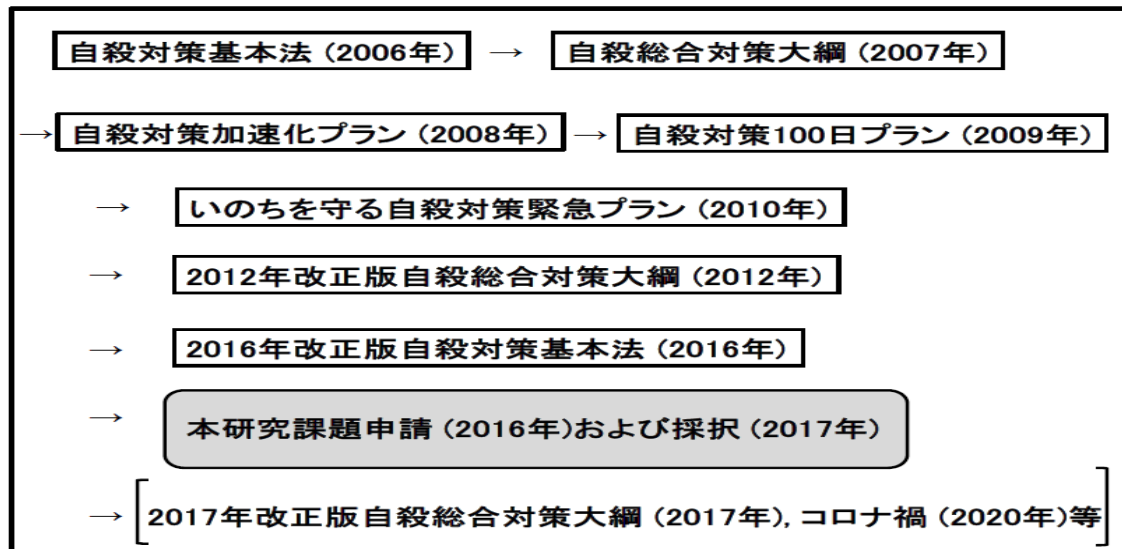
職業別自殺者数において2007-2017年では自営業・家族従業者、被雇用者・勤め人、無職者で年の経過と共に減少の示唆を考慮できるが、学生・生徒等は明らかに減少をしているとは言い難い状況であった[参考文献1]。

わが国の自殺対策の力の入れ方を考えてみると[参考文献2]、2006年10月に「自殺対策基本法」が施行、2007年6月に「自殺総合対策大綱」が閣議決定となった。この「自殺総合対策大綱」では自殺に対して基本的3認識と自殺対策の進行に向けて6つの基本的考え方の示唆を行った。その上で、殊に当時取組んでいく事柄としては「自殺対策基本法」における基本的施策を基に9項目を大枠とした内容であった。この後、2008年に「自殺対策加速化プラン」が決定し、「自殺の実態を明らかにする」、「国民一人ひとりの気づきと見守りを促す」、「心の健康づくりを進める」、「適切な精神医療を受けられるようにする」、「社会的な取組で自殺を防ぐ」、「自殺未遂者の再度の自殺を防ぐ」、「遺された人の苦痛を和らげる」、「民間団体との連携を強化する」、「推進体制等の充実」の施策が成立した。2009年11月に政府が取組む必要のある中期視点における施策として「自殺対策100日プラン」の提言の施行があった。2010年2月には「いのちを守る自殺対策緊急プラン」が決定し、「自殺対策強化月間」を3月との方針を示した上で、様々な機関が協働して広報・啓発活動につき力を入れかつ心の健康相談等の施設を重点的に実行することを提言した。種々の類の相談体制における充実および強化、ゲートキーパーの育成や対応の専門家等の拡充、自殺統計におけるデータ分析を詳しく分析して丁寧な防止対策の実行、連帯保証制度等に関する内容、高リスク者およびリスク地への対策、自殺未遂者や遺族へのサポート、推進対策に関する強化等が同プランに含まれた。2007年の「自殺総合対策大綱」の閣議決定がされてから5年を経過した2012年に同大綱が改正された。その改正された大綱では国レベルの対策の取組から地域レベルの取組にシフトする視点の必要性を示唆していた。加えて自殺総合対策の基本的な考え方として2つの項目が追加され、当面の重点施策としていくつかの新たな内容を含むこととなり、推進体制等に関し、複数の内容を盛り込む考慮を述べた。2016年4月には10年ぶりに「自殺対策基本法」が改正され、総合的に自殺対策を進めていくことで現状に即した新展開の意を把握できた。

研究開始当初の状況としては社会的な取組等をはじめわが国の自殺対策は一定の効果を導き出すと共に若年層の実情にそった詳細な対策を提示していく必要性が論じられている時期であった(図)。

## 2. 研究の目的

わが国における自殺予防で特に大切なことは、実態調査に基づく対策の示唆とその実行である。本研究では、研究開始当初の前の頃から着目されている若年層の自殺に焦点をあて、調査や現状までにおける対策実行を含む研究課題を遂行した。更に、海外の自殺に関する検討について、それらの対策や考慮についてもアプローチを行ってみた。その上で、わが国における若年層の根拠があると考えられた自殺対策に関して考案および構築をし、社会に還元することにより、国レベルそして地域レベルともに活用できる有効な自殺対策の確立を目的とした(図)。



図：わが国の自殺対策における流れと本研究課題に関する位置づけおよびその後の状況も含めた一見

### 3. 研究の方法

若年層の自殺動向を含めた視点で、1)国レベルでの検討、2)地域レベルでの検討、3)その他(1)および2)以外)の検討、4)わが国の現況も考慮した検討、5)海外に関する検討、を行った上で、1)から5)をふまえて6)有効な自殺対策を考察した。

### 4. 研究成果

#### 1)国レベルでの検討

新型コロナウイルス感染症(Coronavirus disease 2019: COVID-19)の世界的流行においてわが国でも2020年から生活・学校・出勤や勤務形態等に制限がかかり、その制限の日々が継続していた。災害の多いわが国において全国にその注意の気持ちをもたらす大きな1つの出来事が1995年に発生した阪神淡路大震災であった。警察庁が公表している数値のみのデータ[参考文献3]よりこの阪神淡路大震災の発生前後とCOVID-19の流行時前後、すなわち、1994-1995年と2019-2020年のわが国における自殺動向の比較から現状行うべき検討を考察した。

1994-1995年において1995年は1994年より男性および女性とも自殺者数は増加していたが、有意ではなかった。年齢階級別の自殺者数では19歳以下の群において1995年は1994年より有意に減少していたが、20-29歳・30-39歳・40-49歳・50-59歳・60歳以上の年齢階級の群では両年で有意差を認めなかった。動機別の自殺者数では「経済・生活問題」が1995年は1994年より有意に増加していたが、「家庭問題」・「健康問題」・「勤務問題」・「男女問題」・「学校問題」・「その他」は両年で有意差がなかった。

2019-2020年において2020年は2019年より総数では自殺者数が増加していた。女性では2020年が2019年より有意に増加していたが、男性では有意に減少を認めた。年齢階級別の自殺者数は19歳以下・20-29歳の群で有意に増加するも、50-59歳・60-69歳の群で有意に減少しており、30-39歳・40-49歳・70-79歳・60歳以上・80歳以上の群では有意差を示さなかった。動機別の自殺者数は「その他」で2020年が2019年より有意に増加したが、「経済・生活問題」は有意に減少した。「家庭問題」・「健康問題」・「勤務問題」・「男女問題」・「学校問題」において有意差はなかった。

これらの結果から考慮すると、近況のわが国としての自殺対策は、若年、女性に今以上に力を入れていくのも一案である。動機も理解が明確に示しづらい事項が増加しているという意とも捉えられる。検討という事柄を含めてもなお一層自殺予防に関連する諸機関は基礎資料となる事柄に基づいた対応・対策の実行を必要とする。

#### 2)地域レベルでの検討

2)について警視庁が公表している数値のみのデータより[参考文献4]、2018-2020年の東京都での「全自殺者数」と「学生および生徒」項の自殺者数および動機を調査して動向をまとめてみた。自殺動機については、「家庭問題」、「健康問題」、「経済・生活問題」、「勤務問題」、「男女問題」、「学校問題」、「その他」、「不詳」で区分となっている。

全自殺者数に関して総数では2018年2,244人、2019年2,107人、2020年2,231人、男性では2018年1,502人、2019年1,386人、2020年1,414人、女性では2018年742人、2019年721人、2020年817人であった。学生および生徒の自殺者数では、総数において2018年127人、2019年

140人、2020年155人、男性において2018年80人、2019年92人、2020年92人、女性において2018年47人、2019年48人、2020年63人を示した。学生および生徒の自殺者数が全自殺者数に占める割合としては、総数で2018年5.7%、2019年6.6%、2020年6.9%、男性で2018年5.3%、2019年6.6%、2020年6.5%、女性で2018年6.3%、2019年6.7%、2020年7.7%と算出できた。

学生および生徒の自殺動機の割合において男性では家庭問題で2018年5.4%、2019年7.9%、2020年6.5%、健康問題で2018年22.6%、2019年20.2%、2020年18.7%、経済・生活問題で2018年3.2%、2019年4.4%、2020年11.2%、勤務問題で2018年0%、2019年1.8%、2020年0%、男女問題で2018年3.2%、2019年4.4%、2020年2.8%、学校問題で2018年18.3%、2019年25.4%、2020年20.6%、その他で2018年7.5%、2019年4.4%、2020年1.9%、不詳で2018年39.8%、2019年31.6%、2020年38.3%であった。女性では家庭問題で2018年3.3%、2019年10.9%、2020年10.7%、健康問題で2018年26.2%、2019年34.5%、2020年28.0%、経済・生活問題で2018年4.9%、2019年1.8%、2020年1.3%、勤務問題で2018年0%、2019年1.8%、2020年0%、男女問題で2018年8.2%、2019年9.1%、2020年5.3%、学校問題で2018年23.0%、2019年10.9%、2020年17.3%、その他で2018年4.9%、2019年0%、2020年5.3%、不詳で2018年29.5%、2019年30.9%、2020年32.0%を認めた。すなわち、男性において2018-2020年の全年で不詳が最多、2018年は健康問題そして学校問題と続き、2019および2020年は学校問題そして健康問題の順で推移した。女性において2018および2020年で不詳が最多で次に健康問題、2019年は健康問題が最多で次に不詳であった。それらに次いで2018および2020年は学校問題、2019年は家庭問題と学校問題が位置した。

これらをまとめると、コロナ禍となった2020年における学生および生徒の自殺者数が全自殺者数に占める割合は女性で上昇しており、調査年において男性・女性とも注意を払うべき核となる自殺動機は類似を示唆していた。不詳に関して一番近くにいる主の医学分野は法医学・監察医であり、更なる対策の立案に向けて社会医学としての融合の面から公衆衛生学分野との連携も必要である。

### 3) その他(1)および(2)以外の検討

自殺未遂歴は自殺の大きな危険に繋がる因子であり、若年の自殺に関してもそれは言える事項となる。自殺未遂者への対応が自殺予防となることも理解できる。本事項は対応や対処に関連する分野や機関が各々自殺予防に向けての活動を行うことと共に各都道府県や指定都市等としても力を入れて取り組んでいる。

生物学的指標においてストレスマーカーとしてコルチゾールやアミラーゼ、精神的ストレスマーカーとしてクロモグラニンAをまずは考慮でき、分泌型IgAは精神のおよび身体的のストレスマーカーとしての役割を認識した。ストレスという領域は大変広範なため今後も本項に関して更なる検討を行うことは大切であると理解している。

### 4) わが国の現況も考慮した検討

各都道府県や指定都市および各市単位で継続した自殺対策に関する啓発活動、継続した自殺対策、現況もふまえて新たに行っている対策もしくは行っていく対策立案という方向性等把握できた。

COVID-19に関し、2020年3月に「小・中・高校および特別支援学校における当面の休校の示唆」、「不特定多数者が集合して接触の機会もしくは接触の機会のおそれにもなるような状況回避」等を国から示唆があり、テレワークの推奨、オンライン形式(会議、職場、学校等)の進行および発展等も認めた。急であるこのような状況の立ち位置にて多くの人々が大変困惑した、不安な日々を送った、知人や友人と話す機会が減ったこと等、心身の疲弊を含めた多くの変化や混乱そして孤独を感じたところもあったと考える。

3)と4)に関しての多くの記した内容でも関連する分野および機関の融合した対応が重要になると考慮できる。

### 5) 海外に関しての検討

国際学会や講演会およびシンポジウム等を通じて複数国の研究者とその各国の自殺対策に関するディスカッションを行った。総合的な自殺対策を展開している点ではわが国とも基本的に共通国が多く、その視点と共に近況各国で力を入れている年齢層や取組を実施しているというところであった。今後このような視点や検討をもって対策に関する活動についての認識をもっている国々も存在した。

### 6) 有効な自殺対策に向けて

1)から5)をふまえて自殺対策においては各分野や機関からの対策や活動の重要性はもちろんのこと、対策・対応に関連する様々な分野や諸機関そして国レベルの対策内容と共に地域レベル

からのアプローチも必要であることが認識できた。その上で、若年に対する有効な自殺対策に関しては多側面からの連携した実施が大切である。

[参考文献]

[1] 厚生労働省. 令和3年版自殺対策白書. [発行]日経印刷株式会社. 令和3年12月10日: P212, 216-218, 220. 2021.

[2] 厚生労働省. 平成29年版自殺対策白書. [発行]日経印刷株式会社. 平成29年7月1日: P42-45. 2017.

[3] 警察庁. 平成18年中における自殺の概要資料、令和元年中における自殺の状況、令和2年中における自殺の状況.

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/jisatsu.html>

最終アクセス: 2021年5月3日

[4] 警視庁. 警視庁の統計(平成30年、平成31年・令和元年、令和2年).

[https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/about\\_mpd/jokyo\\_tokei/index.html](https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/about_mpd/jokyo_tokei/index.html)

最終アクセス: 2021年10月5日

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計47件（うち査読付論文 47件／うち国際共著 17件／うちオープンアクセス 47件）

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 58
2. 論文標題 Discussion of the features of suicide trends in 1994-1995 and 2019-2020: The need for different contents in suicide prevention measures for both periods in Japan from the viewpoint of the present.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Leg Med.	6. 最初と最後の頁 102083-102083
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.legalmed.2022.102083	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Seksenbayev N, Inoue K, et al.	4. 巻 19
2. 論文標題 Is the Association Between Suicide and Unemployment Common or Different Among the Post-Soviet Countries?.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health.	6. 最初と最後の頁 7226-7226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph19127226	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 24(4)
2. 論文標題 Effects of Lifestyles in Elementary and Junior High School Students that Warrant Considerable Attention.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sci Healthcare.	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 24(5)
2. 論文標題 Study of Suicide Trends and Some Kind of Factor in Several Japan 's Prefectures: for the Future Study in the Republic of Kazakhstan.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sci Healthcare.	6. 最初と最後の頁 60-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 63
2. 論文標題 Current state of cause of death determinations in Japan and the need to list the precise underlying cause of death.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Med Sci Law.	6. 最初と最後の頁 114-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00258024221102203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 23
2. 論文標題 Specific reasons for prolonged or excessive school non-attendance among Japanese elementary and junior high school students and the need for effective countermeasures: Approaches and cooperation from various fields are important.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Specific measures to enhance suicide prevention in Japan.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Med Sci Law.	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00258024221142660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Creation of a system to quickly determine the cause of death and efforts that should be made to elucidate the circumstances of suicides.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Med Sci Law.	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00258024231154220	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Changes in the characteristics of suicide in Japan in the third year of the COVID-19 pandemic and the importance of continued suicide prevention measures.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Med Sci Law.	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00258024231165432	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 35
2. 論文標題 Discussion of the urgent problem of young carers in Japan.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia Pac J Public Health.	6. 最初と最後の頁 235-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/10105395231151290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 An Exploration of the Labor, Financial, and Economic Factors Related to Suicide in the Republic of Kazakhstan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health.	6. 最初と最後の頁 6992-6992
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18136992	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujita Y, Inoue K, et al.	4. 巻 72
2. 論文標題 Early detection of excessive stress in people due to the ongoing COVID-19 pandemic: studies including those using biological markers.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int Marit Health.	6. 最初と最後の頁 143-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5603/IMH.2021.0025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する



1. 著者名 Fujita Y, Inoue K, et al.	4. 巻 72
2. 論文標題 The need for detailed study of course credit earned and the comprehension of material by college students as a result of major changes in university course formats due to COVID-19 and actions based on those findings.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int Marit Health.	6. 最初と最後の頁 245-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5603/IMH.2021.0047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 62
2. 論文標題 Suicides following an earthquake: Japanese proposals arising from post-earthquake analyses.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Med Sci Law.	6. 最初と最後の頁 158-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00258024211049598	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 205
2. 論文標題 The use of video games, smartphones, and PCs/tablet PCs based on a survey of students' lifestyles: necessary actions.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Public Health.	6. 最初と最後の頁 43-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.puhe.2022.01.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 32
2. 論文標題 Risk of an Increase in Suicide Rates Associated With Economic Downturn due to COVID-19 Pandemic.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia Pac J Public Health.	6. 最初と最後の頁 367-367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1010539520940893	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 21
2. 論文標題 Suicide trends among the employed in Tokyo, capital of Japan, and the direction of suicide prevention measures based on the epidemiology of suicide.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 21
2. 論文標題 The need for cooperation among professionals in different fields to follow individuals with mental health issues due to effects of COVID-19: From a systematic perspective in terms of impetus and time.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 21
2. 論文標題 Decreasing suicides: The importance of discussion using suicide statistics.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 13-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 26
2. 論文標題 More Effective Suicide Prevention Measures Are Needed for Young Japanese: A Comparison of Japanese and Hungarian Suicide Rates.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int Med J.	6. 最初と最後の頁 453-454
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 21
2. 論文標題 A proposal of 4 criteria for future collaborative research between Semei and Japan: Suggestions focusing on Kochi, Hiroshima, and Shimane.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sci Healthcare.	6. 最初と最後の頁 106-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 31
2. 論文標題 Aspects of a Large Tsunami That Struck the Sunda Strait in Indonesia: Lessons for Japan and the Rest of the World.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asia Pac J Public Health.	6. 最初と最後の頁 574-575
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1010539519867220.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashioka S, Inoue K, et al.	4. 巻 20
2. 論文標題 The Possible Causal Link of Periodontitis to Neuropsychiatric Disorders: More Than Psychosocial Mechanisms.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci.	6. 最初と最後の頁 3723-3723
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms20153723.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Azis IA, Inoue K, et al.	4. 巻 257
2. 論文標題 Electroconvulsive shock restores the decreased coverage of brain blood vessels by astrocytic endfeet and ameliorates depressive-like behavior.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Affect Disord.	6. 最初と最後の頁 331-339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2019.07.008.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Murayama Y, Inoue K, et al.	4. 巻 249
2. 論文標題 Association between Depressive State and Lifestyle Factors among Residents in a Rural Area in Japan: A Cross-Sectional Study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med.	6. 最初と最後の頁 101-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.249.101.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 249
2. 論文標題 High Serum Cortisol Levels as a Potential Indicator for Changes in Well-Regulated Daily Life among Junior High School Students.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med.	6. 最初と最後の頁 143-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.249.143.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 Nov 29
2. 論文標題 Care required for those who work for victims of natural disaster to prevent overwork death (karoshi).	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ (Opinion). <a href="https://blogs.bmj.com/bmj/2019/11/29/the-risk-of-overwork-death-karoshi-in-the-wake-of-natural-disasters/">https://blogs.bmj.com/bmj/2019/11/29/the-risk-of-overwork-death-karoshi-in-the-wake-of-natural-disasters/</a>	6. 最初と最後の頁 bmj/2019/11/29/
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noso Y, Inoue K, et al.	4. 巻 37
2. 論文標題 Childhood Thyroid Examinations in the Kanto hotspot: A Report (Study Period: October 2013 to December 2017).	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Shimane J Med Sci.	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 20
2. 論文標題 Health problems need to be studied by a wider range of fields and new areas, such as psychiatry and social medicine: In light of the association between nuclear disasters and radiation.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 20
2. 論文標題 Summary of suicide prevention measures and future suicide prevention approaches in Japan, Kazakhstan, and the world.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 60
2. 論文標題 Tailgating (aori-unten): A recent major social issue in Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Med Sci Law.	6. 最初と最後の頁 234-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0025802420917063.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Castelli Dransart DA, Inoue K, et al.	4. 巻 25
2. 論文標題 A systematic review of older adults' request for or attitude toward euthanasia or assisted-suicide.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Aging Ment Health.	6. 最初と最後の頁 420-430
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13607863.2019.1697201.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 6
2. 論文標題 The mutual development of universities and areas in Semey and three prefectures in Japan: Continuing educational and research activities, clinical practice, and cooperation and new proposals based on our history with international exchanges.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sci Healthcare.	6. 最初と最後の頁 163-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hashioka S, Inoue K, et al.	4. 巻 12
2. 論文標題 Implications of Systemic Inflammation and Periodontitis for Major Depression.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Front Neurosci.	6. 最初と最後の頁 483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnins.2018.00483	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 26
2. 論文標題 A comparison of specific efforts that Japan and Russia should endeavor to undertake: In light of different population proportions by age group in countries with the world's largest populations.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int Med J.	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 19
2. 論文標題 Ongoing efforts coordinated by personnel in numerous areas and disciplines to encourage local children to lead healthy lifestyles during early childhood, later childhood, and early adolescence.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 19
2. 論文標題 Discussion of several aspects of panic disorder and further research of that disorder in the future.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 19
2. 論文標題 A systematic summary of "social anxiety disorder" and the need for detailed examination of approaches in the future.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 19
2. 論文標題 A discussion of approaches to dealing with neurodevelopmental disorders with a focus on autism spectrum disorder and attention-deficit/hyperactivity disorder.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hashioka S, Inoue K, et al.	4. 巻 31
2. 論文標題 The need to develop a strategy with an evidence-based guideline for the prevention of gaming disorder.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asia Pac J Public Health.	6. 最初と最後の頁 267-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1010539519844079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 26
2. 論文標題 Important measures for dealing with future urban earthquakes in Japan: Lessons from the 2018 northern Osaka Prefecture Earthquake.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int Med J.	6. 最初と最後の頁 442-443
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 5
2. 論文標題 Comparison of clinical features of panic disorder patients with and without family history of psychiatric disorders.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Sci Healthcare.	6. 最初と最後の頁 67-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 Systematic report on panic disorder from various perspectives.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 39-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 Suggesting new outlooks with the potential to facilitate future studies of suicide in Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 The importance of ascertaining what suicide prevention campaigns have been conducted at the national and local level and understanding, based on those campaigns, approaches that are needed to devise future preventive measures at the municipal level.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 A discussion of current circumstances that need to be studied based on suicide trends in Japan and Ukraine.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue K, et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 Urgent need for more effective measures to prevent drug abuse by regular stimulant users in Japan: The need for coordinated efforts to prevent drug abuse.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J St Mar Med Ins.	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計45件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 26件)

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 コロナ禍で学生の自殺動機の特徴は変化したか? : 法医学と公衆衛生学との連携の必要性.
3. 学会等名 第106次日本法医学会学術全国集会.
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 小学6年生から中学3年生における心身の健康関連事項にむけた具体的な方策.
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会.
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 From the discussion of COVID-19 pandemic in Japan: To carry out epidemiological studies on suicide in trends of COVID-19 pandemic in the Republic of Kazakhstan.
3. 学会等名 The 3rd Hiroshima & Kazakhstan Medical Symposium. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Continuous our international exchange and research meeting in new style: Semey, Kochi and Hiroshima.
3. 学会等名 The 3rd Hiroshima & Kazakhstan Medical Symposium. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 The importance of mental health care for children due to the influence of COVID-19 pandemic.
3. 学会等名 The 3rd Hiroshima & Kazakhstan Medical Symposium. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Aiming to decrease fatigue and stress in people caused by effects of the long-term COVID-19 pandemic and some items: thinking about post COVID-19.
3. 学会等名 International MED-Congress NCJSC. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上 顕.
2. 発表標題 シンポジウム4:「孤独を抱える青年へ、精神医療に何ができるか」: 多分野・多職種の協働が必須である若年の自殺対策: 精神医学、社会医学、精神保健学、保健管理学、行政および教育分野の融合.
3. 学会等名 第62回中国・四国精神神経学会 / 第45回中国・四国精神保健学会. (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Are risk factors for suicide and preventive measures for COVID-19 common in Japan and Kazakhstan?.
3. 学会等名 XV INTERNATIONAL SCIENTIFIC-PRACTICAL CONFERENCE. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Inoue K.
2. 発表標題 Some recent topic of the research in the world.
3. 学会等名 2021 SMU special lecture. (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Anxiety and fear about mental and physical health for radiation exposure in the people -importance of dissemination about correct knowledge based on the cooperation in various fields-.
3. 学会等名 The 24th Hiroshima International Symposium "Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries". (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue K.
2. 発表標題 Major current discussion in social medicine including hygiene in the world.
3. 学会等名 2020 SMU special lecture. (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 有職者における一層の自殺防止にむけて 近年の東京をベースとした検討から .
3. 学会等名 第92回日本産業衛生学会.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 近年の薬物事犯動向に基づく今後に向けての具体的な薬物対策.
3. 学会等名 第103次日本法医学会学術全国集会.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 中学生における生活習慣事項とコルチゾールの関連について.
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Necessity of understanding about Mental Disorders in Republic of Kazakhstan, and actually of international exchange in Kochi, Hiroshima, and Shimane, Japan.
3. 学会等名 The 1st Hiroshima-Kazakh International Medical Symposium. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nosoy Y, Inoue K, et al.
2. 発表標題 Current status of childhood thyroid cancer 8 years after Fukushima nuclear power plant accident.
3. 学会等名 The 1st Hiroshima-Kazakh International Medical Symposium. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hoshi M, Inoue K, et al.
2. 発表標題 Our animal experiments using radioactive dust in Semipalatinsk.
3. 学会等名 The 1st Hiroshima-Kazakh International Medical Symposium. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeichi N, Inoue K, et al.
2. 発表標題 Progress of thyroid cancer treatment and diagnosis in these 50 years, including the radiation problem.
3. 学会等名 The 1st Hiroshima-Kazakh International Medical Symposium. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 'Gaming disorder' への大学における対応は多職種・複数機関の連携が必要である：今後増加するであろう本疾患へのアプローチを考えて.
3. 学会等名 第49回中国四国保健管理集会.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 大学での 'Social Anxiety Disorder' における対応や配慮の検討の現状を考慮してみる：これからの対応にむけて.
3. 学会等名 第49回中国四国保健管理集会.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nosono Y, Inoue K, et al.
2. 発表標題 Thromboembolism in Patients with Cancer-how to prevention in Japan-.
3. 学会等名 The XIV International Scientific and Practical Conference.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hashioka S, Inoue K, et al.
2. 発表標題 Electroconvulsive treatment restores the decreased coverage of brain blood vessels by astrocytic endfeet and ameliorates depressive-like behavior.
3. 学会等名 14th World Congress of Biological Psychiatry.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hashioka S, Inoue K, et al.
2. 発表標題 Glia as new promising targets for antidepressant action of electroconvulsive treatment.
3. 学会等名 The 10th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences.
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Important viewpoints of suicide prevention: A Tokyo-based investigation of causative factors.
3. 学会等名 The 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM2018). (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上 顕, 他.
2. 発表標題 経済的事項と自殺との関連についての検討 春季賃上げ率の動向が自殺推移の指標となる可能性があるのか.
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 臨床医学で知っておきたい不安症と神経発達症より：パニック症、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症に関して。
3. 学会等名 2018年聖医会中四国支部。(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 A basic study on specific measures to promote healthy lifestyles and mental and physical health among elementary and middle school students in a region of Shimane Prefecture: efforts involving school-related personnel and university personnel ~ collaborative action from several fields to be conducted in Kazakhstan ~.
3. 学会等名 INTERNATIONAL SCIENTIFIC AND PRACTICAL CONFERENCE MODERN INNOVATIVE METHODS IN MODERNIZATION OF MEDICAL EDUCATION, SCIENCE AND PRACTICE " DEDICATED TO THE 65th ANNIVERSARY OF SEMEY MEDICAL UNIVERSITY. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Further improving medicine in Kazakhstan and Japan through an agreement on bilateral exchanges: fostering further collaboration among Semey, Kochi, Shimane, and Hiroshima.
3. 学会等名 INTERNATIONAL SCIENTIFIC AND PRACTICAL CONFERENCE MODERN INNOVATIVE METHODS IN MODERNIZATION OF MEDICAL EDUCATION, SCIENCE AND PRACTICE " DEDICATED TO THE 65th ANNIVERSARY OF SEMEY MEDICAL UNIVERSITY. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Study for measures against refuse to attend school in Japanese students: important this research in Kazakhstan in the future.
3. 学会等名 INTERNATIONAL SCIENTIFIC AND PRACTICAL CONFERENCE MODERN INNOVATIVE METHODS IN MODERNIZATION OF MEDICAL EDUCATION, SCIENCE AND PRACTICE " DEDICATED TO THE 65th ANNIVERSARY OF SEMEY MEDICAL UNIVERSITY. (国際学会)
4. 発表年 2018年



1 . 発表者名 Inoue K, et al.
2 . 発表標題 Was there the change of suicide methods in several periods? ~ the necessity of such investigation and comparison in the world~ .
3 . 学会等名 INTERNATIONAL SCIENTIFIC AND PRACTICAL CONFERENCE MODERN INNOVATIVE METHODS IN MODERNIZATION OF MEDICAL EDUCATION, SCIENCE AND PRACTICE ” DEDICATED TO THE 65th ANNIVERSARY OF SEMEY MEDICAL UNIVERSITY. ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Inoue K, et al.
2 . 発表標題 Implementation of concrete suicide prevention measures and activities at the national and regional level in Japan ~ in order to study of this viewpoint in Semey ~ .
3 . 学会等名 INTERNATIONAL SCIENTIFIC AND PRACTICAL CONFERENCE MODERN INNOVATIVE METHODS IN MODERNIZATION OF MEDICAL EDUCATION, SCIENCE AND PRACTICE ” DEDICATED TO THE 65th ANNIVERSARY OF SEMEY MEDICAL UNIVERSITY. ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Inoue K, et al.
2 . 発表標題 Some problems in urban earthquakes that became prominent in the earthquake of Northern Osaka Prefecture in Japan: things to consider in earthquakes in the world.
3 . 学会等名 INTERNATIONAL SCIENTIFIC AND PRACTICAL CONFERENCE MODERN INNOVATIVE METHODS IN MODERNIZATION OF MEDICAL EDUCATION, SCIENCE AND PRACTICE ” DEDICATED TO THE 65th ANNIVERSARY OF SEMEY MEDICAL UNIVERSITY. ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Inoue K, et al.
2 . 発表標題 Agreements on international exchanges between universities and facilitating exchanges with the prefectures and municipalities where they are located: In light of a short systematic review.
3 . 学会等名 INTERNATIONAL SCIENTIFIC AND PRACTICAL CONFERENCE MODERN INNOVATIVE METHODS IN MODERNIZATION OF MEDICAL EDUCATION, SCIENCE AND PRACTICE ” DEDICATED TO THE 65th ANNIVERSARY OF SEMEY MEDICAL UNIVERSITY. ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 パニック症に関する最近の話題：睡眠時パニック発作も含めて.
3. 学会等名 平成30年度島根大学公開講座. (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上 顕 他.
2. 発表標題 精神医学におけるbasic and topics：パニック症と自閉スペクトラム症に着目して.
3. 学会等名 上毛学術講演会. (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Issues and discussion of important research based on viewpoints of various fields.
3. 学会等名 6th Shimane Semy International Symposium: World Radiation Exposure Health Problems~New challenges for the future~. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 The need for collaborative study in Ukraine and Japan of epidemiological and biological viewpoints about mental problem by disaster issues.
3. 学会等名 Kiev International Symposium in 2017. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上田規人, 井上 顕, 他.
2. 発表標題 摂食障害のある学生との面接過程.
3. 学会等名 第47回中国四国保健管理集会.
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上 顕.
2. 発表標題 不安症群におけるパニック症に焦点をあてた症状把握と対応の重要性～広場恐怖に関する内容も含めて～.
3. 学会等名 第47回中国四国保健管理集会.(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Joint study of influence about genetic and environmental factors in Neurodevelopmental Disorders in the future by viewpoints of Psychiatry, Social Medicine, Physical Medicine and Radiology in Semipalatinsk.
3. 学会等名 X International Research and Practice Conference.(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nosō Y, Inoue K, et al.
2. 発表標題 Achievement of international exchange between SSMU and Shimane University until today.
3. 学会等名 X International Research and Practice Conference.(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Aiming at epidemiological and statistical suicide investigations in Semey by cooperation of some fields based on the research experience in Shimane Prefecture.
3. 学会等名 X International Research and Practice Conference. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Discussion of common prevention measures for road traffic accidents in the world by the results of several countries.
3. 学会等名 X International Research and Practice Conference. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Psychiatric topic contents of Semipalatinsk Study in future based on the viewpoints in the present time.
3. 学会等名 21th Hiroshima International Symposium: Studies on health effects of exposure to radioactive micro-particles. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Inoue K, et al.
2. 発表標題 Importance of collaboration research and discussion between Semey and Japan in Semipalatinsk Study.
3. 学会等名 5th Shimane Semey International Symposium:World Radiation Exposure Health Problems-New challenges for the future-. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------